

コンパクトシーラーの処理速度等について

コンパクトシーラーの処理速度は、通常Maxスピード設定で稼働させます。

Maxスピード設定と言っても、直流モータの特徴でも有ります、負荷は一定です。

従って、圧着ハガキの処理スピードは一定となります。

また、Z折り圧着ハガキの積載容量（給紙容量）は、用紙の厚さ、材質、ストレスの状況によってかなりの変動があります。

圧着済みハガキの排出容量（紙受け容量）は、落下式の積載容量となりますが、上記記載の影響を受けます。

圧着ハガキは高温でトナーを用紙に定着させています、用紙に対するストレスは想像以上になります。

従って、プリンターメーカーは、私の知る限りで、あるメーカーの一機種（テフロン加工）しかありません。但し、スペックが劣るため、導入事例がほとんど無い様です。

すなわち、プリンターメーカーは僅か1機種を除き、許容していないですし、保守の対象にもしていません。

仮に、プリンターの保守契約をされていても、もちろん保守の対象にしませんし、むしろ注意されます。

インクジェットプリンターは、もともと圧着ハガキでは使用できません。（メーカー問わず）

しかし、カット紙の圧着ハガキは、世に多用されています、プリンターメーカーが営業的な観点から見逃しているのです。

さて、圧着ハガキの用紙はかなりのストレスを抱えたまま、シーラー機に積載することになりますが、通常は印刷後、1日以上の経過（熱を冷ます）後に処理することが一般的です。（シーラー機での給紙障害の軽減）

ここで、弊社のCS80の最大の特長は、小型シーラー機でありながら、用紙の上げ下げを平行移動させる方式をとっています。**用紙の給紙機構に対して、用紙残量の多い少ないにかかわらず、均一にさせることで、給紙障害を最小減に抑えています。**従って、CS80では、印刷後（熱い状態）の経過時間は不要ですと宣言しています。（プリント→圧着処理の流れは連続が主体）

- ① 処理スピード
約2,000枚/時間（オペレーション時間を除く）
- ② 用紙積載量
弊社の標準Z折り4面圧着ハガキで約250枚、先の記述にありますように用紙の状態でかなりの差がでますが、給紙のストロークで約30mm（上下動する給紙機構の標準的なサイズ）程度です。
- ③ 用紙排出積載量
給紙の積載量の約3倍となりますので、200枚程度となります。

追記

- ① cs30の処理スピードは手差しですが、事前に折った状態であれば、cs80の処理スピードを超えることが出来ます。
- ② 縦入力、横入力が自由です。
- ③ 給紙障害が皆無となります。保守費の軽減から、ランニングコストが大幅に軽減できます。
- ④ バックアップの要素を含め複数台で対応することをお勧めします。

【CS80 Model】



【CS30 Model】



動画【<https://www.tcsnet.co.jp>】

【HPのTop Page】→【コンパクトシーラーボタン（page左下）→シーラービデオボタン】→【CS80モデル or CS30モデル】